

【秋田県仙北市】

校務ＤＸ計画

教職員の校務の効率化と負担の軽減を図り、教育の質の向上を目的として、県と市町村による統合型校務支援システムの共同調達・共同利用に参加し、令和７年１０月より運用を開始する。

当該システムは、フルクラウド型・次世代校務支援システムであり、ゼロトラストネットワークによる強固なアクセス制御を行っており、従来と比較し高いセキュリティが担保されている。

統合型校務支援システムのメリットである情報の一元管理により、これまで複数の職員がそれぞれ入力していた児童生徒情報が横軸で連携することができ、通知表や健康管理、指導要録等の入力作業の軽減や、児童生徒の欠席連絡アプリにより、朝の連絡対応時間の削減、校務支援システムと連携した出席簿への転記や感染症システムへの自動連携が実現しており、校務の効率化が図られている。また、ダッシュボード機能により、児童生徒が入力した心の状況や出欠状況がグラフ化され、学校のみならず教育委員会においても、全学校、学校単位でその状況を即時確認出来るようになっており、状況把握がより容易に行うことができるようになる。また、同システムの利活用による紙ベースの業務の見直しや、ＦＡＸでのやり取り・押印の見直しを推進する。

教育委員会と学校との事務に関するＤＸ推進については、同システムのパブリッククラウドを利用したペーパーレス化並びに文書の重複となるような鑑文書の省略等を推進していく。各学校への通知や調査については、現在、自治体と各学校のネットワークが分離されているため課題が残っているが、教職員の負担軽減に資する環境整備を続けていく。